

「地域の日系人協会の連携強化のためのフォーラム」が開催の運びとなりましたこと、お喜び申し上げます。2 日間にわたり活発な議論が行われることを期待しています。また、エンリケ・カトウ様はじめ「バヒオ日系人会」の皆様、このたび協会が正式に発足しましたことに、心よりお祝い申し上げます。来年レオン市内で開催される予定の第 17 回全国日系人大会（CONANI）に向けて皆様と一緒に努力してまいりたいと思います。

ご列席の皆様、本年は、第二次世界大戦が終結して 80 周年を迎えます。我が国は、米国など連合国に対して無謀な戦争を仕掛け、310 万人の日本人が犠牲になるという破滅的な敗戦に至りました。日本が始めた戦争によって、日本人の犠牲者数をはるかに上回るアジアの人々が亡くなり、連合国の多数の将来ある若い兵士たちもアジア太平洋地域で日本との戦争の中で命を落としました。

戦争が終結した 1945 年 8 月 15 日、我が国はこの戦争への深い悔悟の念とともに、誓いました。二度と戦争の惨禍を繰り返してはならない。我が国は、ひたすらこの不戦の誓いを堅持し、平和を愛する国家としての道を歩んできました。このようにして我が国は、国際社会の信頼を取り戻し、やがて世界の国々から最も信頼され頼られる国の一つとなっていきました。

我が国が国際社会の信頼を勝ち得、諸外国と相互理解と信頼に基づく友好関係を発展させていくに当たって、世界各地の日系社会の果たした役割は大変大きかったと私は思っています。日系社会がそれぞれの国や地域において培ってきた地元の人々の日本に対する親近感や信頼感は、日本外交にとって貴重な資産です。ここメキシコにおいても、1897 年の榎本移民を嚆矢として日系移民とその子孫は農業、商業、医療などさまざまな分野で活躍し、メキシコ革命による混乱や第二次世界大戦という不幸な一時期を経てもなお、メキシコ社会の発展に貢献し、地元メキシコの人々の大きな信頼を得ています。

ご列席の皆様、本年は日本メキシコ経済連携協定が発効して 20 周年となります。この協定は、2004 年に当時のビセンテ・フォックス大統領と小泉総理大臣の間で署名され、翌 2005 年に発効しました。当時、メキシコ国内には約 300 の日系企業の拠点がありましたが、それが現在は最新の調べによれば約 1600 拠点に増えています。このうちの半分以上、900 近い日系企業のオフィスや工場が、私たち総領事館が管轄するバヒオ地域の 6 州、すなわちグアナフアト州、アグアスカリエンテス州、ハリスコ州、ケレタロ州、サンルイスポトシ州及びサカテカス州で日々操業しています。

これらの日系企業はたくさんの雇用を生み出し、日本の持てる産業技術をメキシコに広め、バヒオ地域の経済、そしてメキシコ経済の発展に大きく貢献してきました。このようにバヒオ地域において日系企業がビジネスを展開し、日本人コミュニティが地元メキシコの人々と様々な分野で交流することができるのは、メキシコの人々の日本に対する親近感と信頼感が土台にあるからだと思います。日系社会はこうしたメキシコの人々の日本に対する信頼感を醸成し、日本とメキシコの間の相互理解の架け橋の役割を果たしているのだと思います。

私たち総領事館は、こうした貴重な役割を果たしているバヒオ地域の日系社会が他地域の日系社会と連携を深め、メキシコ国内における日系社会のプレゼンスを高めていくことを大いに期待しています。そして、日本大使館、日本商工会議所、JICA、国際交流基金など日本側関係機関と協力して、またグアナファト州政府、レオン市、ここ文化フォーラムなど地元メキシコの関係機関の支援も頂きながら、日系社会の活動をできる限り支援していく考えです。

それでは、バヒオ地域の日系社会、そしてメキシコの日系社会の連携がますます強化され、いっそう発展していくことを祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。